



がんばれ!! ファーストウィングのカルガモ母さん!

毎年夏になるとカエルの大合唱が賑やかなファーストウィングのエントランスの池に、昨年の5月から6月ごろに、カルガモの親子がやってきました。

心が癒される自然の営みがひとつ増えてうれしい限りでしたが、あの親子はいったいどうなったのでしょうか? 無事に巣立ったのでしょうか? 今年もまた来てくれるのでしょうか?

【味岡聡太郎】

ファーストウィングの管理人さんにお話を伺ってみると意外なことがわかりました。

・去年は2組の親子がやってきたが2組ともヒナは全滅だった。

・カルガモの家族は、親(母親?)が一羽とヒナが8~10羽くらい。

・ヒナが全滅してしまうのは①人が目を離れた際にカラスに襲われてしまった! ②池から岸に上がれなくて体温が低下してしまう。③親があまり面倒をみていない(餌をやってない)のが原因のようようだとのこと。

実は2組もの親子が来てたんですね。1組目のヒナが全滅して親だけが失意の引越をして居なくなると、1週間と開けずに次の親子がやって来て、子育てを開始、結局、2組目のヒナたちも全滅してしまっ

そうです。ヒナがあまりにも育たないので、ファーストウィングの有志の住民の方が、カラス避けのネットを張ったり、餌の台を作ったりと、いろいろと手を差し伸べ親子をフォローしたそうなのですが、なかなか難しいようです。

ファーストウィングの池には卵がヒナになってから引越してくるそうです。どこで卵を産んでヒナが歩けるようになるまで育てているのか? また、なぜファーストウィングの池なのか? は謎です。

常識的に考えたら花見川からやって来るのではないかと(管理人さん)とのこと。花見川から結構な距離があるのに人知れず、テクテク歩いて来た・・・と思うと愛おしいです。

今年もまたカルガモの一家はやってくるのか? また、ヒナは無事に育つのか? ベイ

タウンニュースでは引き続きファーストウィングのエントランスの春を注目して行きたいと思います。

それにしても、カラスは強敵ですね。カラスはカラスで生きるために必死でカルガモのヒナを餌にしたのでしょうか? 他に食べるものは幾らでもあるのだから、ファーストウィングのカルガモを食べるのはご遠慮頂きたいものです。今年もやって来て、今度こそは無事に巣立てるよう皆でカルガモの一家を見守りましょう。



Who's Who Vol.47 チャイナ厨房チンタンタン オーナー

のぶゆき 佐川 宜幸さん

ベイトウンで15年以上飲食店を営んでいる佐川さんに、ベイトウンに出店したきっかけや、仕事にける思いなどを聞いた。【金】

今年50歳になる佐川さんは四国の徳島で生まれ育った。

最初から職人を目指していたわけではなく、岡山の大学を卒業後、東京で三菱電機のコンピューター部門で働いているときに、集団で働くサラリーマンよりも、自分の腕一本で道を切り開いていく職人に魅力を感じた。

既にお子さんもいたため周りの大反対にあいながらも、会社を辞め、修業を始めることになった。

短期間の修業を2店で経験し、鉄板料理で有名な八王子の「うかい亭」で7年間勤めた。料理に妥協することなく一から手づくりし、お客様へのサービスも徹底しているという、うかい亭の評判を聞き、お客として初めて訪ねた時に惚れ込み、その日のうちに自分から頼み込んで採用してもらった。

10歳近くも年下の先輩たちの下での修業だったが、ここでの経験がその後ベイトウンで始めた鉄板料理ヨシノのこだわりのスタイルにそのまま活かされた。

元々職人を目指した時から「いずれ自分の店を」とは考えていたが、ベイトウンでの開業はまったくの偶然で、住んでいた埼玉から海を見ようとバイクツーリングで訪れた幕張で、たまたま見かけた大規模な工事現場に興味をおぼえたのがきっかけだった。初めての自分の店を新しい街で始めてみた

いと思いベイトウンで開業する事になった。

開業資金が足りずほとんどの内装を自分で仕上げ、ベイトウンのレストラン1号店として始めた鉄板料理ヨシノでは素材にこだわり、築地にも仕入れに出向いていたし、売れ残った素材は迷わず処分していた。

料理とは、味はもちろんのこと、料理をのせる皿やサービス、お店の雰囲気までも含んだものと考え、同じ鉄板焼店がある近隣のホテルに負けないよう心がけ、ほとんど一人で厨房を切り盛りしていた。

そして最初の4年間は埼玉から2時間かけてバイクで通っていたし、忙しいクリスマス等の時期は店に泊まり込んで仕込みをした。

持病の腰痛の悪化で長時間厨房に立てなくなったのが転機となり今のお店を始めることになったが、「それにしても何故中華料理?」との質問には、「自分が知らない料理を選択することで、経営に専念することを目指した」と答えてくれた。

3店舗に広げた商売は決して順調ではなかった。結局、海浜幕張駅前の店舗は手放すことになったし、新浦安店は震災の被害を受けた。それでも今後のやりたい事を聞いた時には、「自分が直接店に立つ小さなお店を始めたい」と話した。

私生活では、子どもたちが手がかからなくなり少し余裕が出てきたことから、社会

に役立つことをしたいと考え、里親をすることにした。つい最近まで、ばらばらに引き取られそうになっていた1、3、5歳の3人兄弟をいっぺんに引き受けていた。結局子どもたちは親族に引き取られる事になったが、「3人をお風呂に入れるだけで1時間かかりますよ」と、明るく笑っていた。

「趣味」というよりは、生活の一部のようになっている武道との関わりは、中学の時に始めた剣道からだ。大学から始めた極真空手は6年かけて有段者になった。今はムエタイにのめり込んでいて、「できればプロテストを受けてみたい!」と夢を語ってくれた。

こんな人が次に始めたいと思っているお店とはどんなものか気になった。それにしても見た目の印象や、とつとつと話す感じとは違い、実はすごくパワフルな人で、何だかこちらまで元気になるインタビューとなった。



コアで新しい趣味と仲間を見つけよう！！

春です！ 春といえば何か新しいことを始めるのにぴったりの季節（ちょっと強引ですが）。
 とは言うものの、何を始めたら良いのか解らないし、お金も掛けられないし…、そうだ！ 公民館で新しい趣味と仲間を見つけてみよう！ 【味岡聡太郎】

ということで、まずは打瀬公民館のホームページを覗いてみると…、ありました！「平成23年版 千葉市打瀬公民館利用団体一覧」(<http://www.city.chiba.jp/kyoiku/shogaigakushu/shogaigakushu/inahama/utase/download/sa-kuru.pdf>)。打瀬公民館で活動しているサークルは全部で52サークルもあるんですね。公民館って、図書館以外は無用な場所と思ってたけど（失礼!!）、意外にたくさんの方が使ってお

れるようで、我がベイタウンニュースもちゃんと載ってます。

全部を本誌で紹介するのはとても無理なので、ざっくりとマトリックスにしてみました。なんとな〜く並べてみたっていう程度なので、「ウチは〇〇より若者向けだ!!」とか、そういった抗議は無しでお願いしますね。

公民館職員の長妻さんにお話を伺ってみると、「石門印会」（篆刻）と「房総太巻き

ずしの会」（太巻きずし作り）辺りは特色が濃いとのこと。確かに、篆刻っていかにもマニアックですね。あと、房総太巻きずしは、完成後にスパッと切った時に初めて模様が見れるところは派手、とのことでは是非本誌で取材させて頂きたいところです。

「ツインズファミリー」も気に入りますね。「双子・三つ子の家族の集い」って可愛いんだろうな〜。こちらの皆さんにも取材をお願いしたいな〜。

いずれにしても、サークルはたくさんあるから、新しい趣味と、新しい仲間を見つけて、新しいご自分の一面を見つけてみるのも良いのではないのでしょうか。



草似会 すみれの会
打瀬ウクレレサークル
 幕張BTコア 3B体操
 幕張ベイタウンニュース
 詩吟を習う会 石門印会
 ひまわり会 蕎麦打ち道場幕張
 コア・チェンバーシンガーズ
 女声コーラス瀬音ベイタウン中年バンド
 ダンスルーム・ビューティー
 ダンス・ドリーム
 房総太巻きずしの会

大人向け

文化系

幕張ベイタウン室内合奏団
 ラモー千葉管弦アンサンブル
 幕張ベイタウンオーケストラ
 千葉ソロギターサークル
 ベイタウン音楽愛好会

打瀬ウクレレサークル
 手編み同好会

わくわくおはなし会

しおかげおはなし会



ジュニアコーラスフェアリーズ

レディスケッチ

ヤング

一水会
 混声コーラスGAFU
 なつめの会
 をどり組
 打瀬詩吟会
 ベイタウン健康ウォークの会



体育会系

ハワイの歌 ツインズファミリー
 かな書道「つくしの会」
 ダンスハズ
 ベイタウンフルートアンサンブル
 スポーツダンス打瀬

キッズとママの体操
 親子フラ

コア・タオ・リラックス気功 レディスケッチ
 なぎさフォークダンス

太極拳サークル



ダンスキッズ

4月のコア・イベント

4月21日（土）わくわくおはなし会 4月の常設お話し会

日時：4月21日 第3土曜日 10:30から
 場所：ベイタウン・コア講習室
 予約不要 途中入場できます。
 今もわくわくするお話を用意しておまちしています。
 年齢制限はありません。絵本の好きな大人も子どももぜひきてね！
 予約は不要です。読み手も募集中 見学大歓迎！
 ブログ更新中・見てね** <http://waku.makusta.jp/> **
 お問い合わせ先：井上 (043-211-0188 wak2@yahogroups.jp)

4月28日（土）寺子屋工作ランド

不思議なベンハムのコマを作ろう
 日時：4月28日 第4土曜日 9:30から11:30
 場所：ベイタウン・コア工芸室
 持ってくるもの：小刀、セロテープ 参加費：50円（保険料）

第20回ベイタウン音楽会「サマーコンサート」出場者募集

ベイタウン・コアでのサマーコンサートの出場者を募集いたします。
 日時：7月8日（日）
 場所：ベイタウン・コア音楽ホール
 内容：ピアノやヴァイオリン他の楽器演奏、声楽などのソロでもアンサンブルでも出演できます。
 申し込み先：小野寺 TEL/FAX 211-0675
 メールアドレス ro.no-1117dera@nifty.com
 申し込み受付期間：4月16日（月）～4月30日（月）ただし、いっぱいになり次第締め切らせていただきます。

4月22日（日）第104回ファツィオリの会（コア文化振興基金後援事業）

日時：4月22日（日） 9:30～11:30
 場所：ベイタウン・コア 音楽ホール
 予約不要 途中入場できます。
 フルコンサートピアノ「ファツィオリ」の演奏や他の楽器の演奏、声楽や合唱などに使って頂くことが出来ます。非公開でもご利用頂けますので、お気軽にお申し込み下さい。
 定員になり次第締め切らせて頂きます。
 聞きに来て頂くのは、自由です。
 最新の情報は <http://www.baytown.ne.jp/core/> をご覧ください
 申込締切 4月15日（日）
 申込先 TEL & FAX 211-6008（須原）

ベイタウンの少年野球チーム、「打瀬ベイバスターズ」が発足10周年を迎えた。ベイバスターズがスタートしたのは2003年。当時のベイタウンニュースにも募集の記事が出ている。地元で少年野球をという有志3人が集まり、最年長で少年野球指導の経験もある波木さんが会長となって発足した。

美浜区は子どもの数が多いせいか少年野球も盛んだ。強豪チームもあるがベイバスターズはそうスパルタな指導をするチームではない。波木さんによると「強いチームより育てるチーム」だそうだ。そのせいか、ここに来てはじめて野球をやったという子どもも少なくない。大半は仲良しの友達に誘われてという小学校低学年でやってくる。だがその子どもたちがだんだん身体も大きくなり、小学校卒業でベイバスターズを去る頃には見違えるようなスポーツ少年になって中学に進む。波木さんはそんな子どもたちの成長を見るのが楽しみだ。今は春休みで中学生になった最上級生を送り出したばかりのベイバスターズ。4月からはまた新しい子どもたちが入ってくる。頑張れベイバスターズ。【松村】



3月1日朝9時。ベイタウンの3小学校にはそれぞれ15人ずつ、合計45人の小さな先生が訪れた。各小学校の1、2、3年の教室にやってきたのは打瀬中3年生の中学生たちだ。名付けて「リトルティーチャー派遣計画」。この授業は前々号で紹介した球技大会指導のいわば勉強版。中学生が同じ地域の小学生を正課の授業で教える。なんとも楽しみで意欲的(?)な特別授業だ。

打瀬小学校に来たのは今津さんと北條さん。ふたりとも高校受験を終え、合格通知を受け取っての参加だ。ふたりにとって打瀬小は母校だ。3年前に卒業した学校で今度は教壇に立つことになった。小学校で任されたのは低学年の授業の補助。担任の先生の傍で授業の補助をするのだが、そう簡単でもない。3年生の授業の補助をした北條さんは、「最初の2時限目の授業では子どもたちと初対面になるので緊張し、あまり話もできなかった。これではいけないと思い、次の3時限目の間の休み時間、サンタイムの時間に鬼ごっこなど身体を動かして遊んだ。これでお互いに気分がほぐれ、3時限目は子どもたちとも話ができるようになりうまく進められた」。

今津さんは1年生を担当したが、最初の授業が体育だったので、子どもたちと身体を動かして接することができ、次の教室での授業では補助もスムーズにできたそうだ。ふたりとも先生と生徒の間で信頼関係が大切なことを身をもって体験することになったようだ。

リトルティーチャー派遣は打瀬中学校区4校が参加するこの地域独自のプログラムだ。中学生と小学生と一緒に参加するこんな授業が正課以外にもっとあっていいと思うがどうだろう。

【松村】



美浜打瀬小でのリトルティーチャー授業風景。採点の手伝いだろうか。

もっと熱く議論しようぜ

昨年の10月号でも紹介した「シーサイドブリッジ」の渡り初め式が4月7日行われる。午前10時から12時の予定なので、このベイタウンニュースが配布される前には式典は終わっているだろう。この式典には企業社長、千葉市長も列席の予定で、2000年のマリンデッキ開通式よりも遙かに大きなものだ。主催する自治会連合会、共催する商店会とともに緊張して準備しこの日を迎えることだろう。

苦勞して式典を準備した関係者の皆さんには申し訳ないが、緊張してやってもらいたいことは他にもある。この規模の橋では通常開通式のようなものは行わない。前回のマリンデッキのときはベイタウンで初のデッキの開通とあって企業庁が準備し、費用も企業庁が負担して開催された。ところが今回は自治会連合会が10万円の費用負担をして行われると聞く。もちろんこの式典はベイタウンにとって記念すべきものだ。その費用10万円がそれに値するかどうかは主催者である自治会連合会が決めればいいことであり、費用の額から見ても目くじらをたてるほどのことではない。ここで問題にしたいのはそこに至る経緯だ。

この開通式は当初自治会連合会が50万円の予算をかけて行われることになっていた。年間の事業予算が100万円前後という自治会連合会にとっては大きな金額だ。連合会の予算は毎年加入する住民からの一人あたり500円の会費を積み上げたものであり当然連合会の内部でも議論になった。「なぜ50万円もの予算をかける必要があるのか」、「自治会の予算を使うことは街全体で負担すべき行事の費用を自治会加入者だけが負担することになり不公平だ」などの意見が出され、ほぼ一ヶ月をかけた議論を行った末に現在の規模に修正した。こんな意見が出ることは当然であり、それを聞いてイベントの内容を検討したことは連合会の運営が民主的に行われたと評価できるだろう。

ところがこの議論は連合会内部だけで行われ、その内容は一般の住民には全く伝わってこない。聞けばこのイベントは当初商店会が街の活性化を目的に独自に主催しようとしたもので、その費用は千葉市が負担する予定だった。しかしその予定が立たなくなり、連合会で費用を肩代わりすることにしたのだという。事実ならこの話には

街がもつ多くの問題が絡んでいることになる。「住む文化」を目指すベイタウンで商店会と自治会はどう協力していくのか。そろそろ話し合う時期でもある。街開きの頃、第1回のベイタウン祭りでは、中学生による24時間営業レストランはベイタウンに必要なを熱く語る路上フォーラムも開かれた。こんな気風がかつてのベイタウンにはあった。

日頃連合会からは問題を提起しても住民が積極的に議論に参加しない、という声をよく聞く。街が大きくなり落ちてきたので、初期の頃のように街作りについて議論することを住民が好まなくなったのがその理由だといわれてきた。しかし今回の件を見るとそれだけではないのではないかと考えさせられる。住民間、あるいは自治会内で対立の起きそうな問題を議論することに消極的になっているのではないか。

今回の問題は議論を公にすればきっと街の人の多くの関心を引き、これからの街作り避けることのできない多くのテーマを議論できるいい機会になったと思うと残念だ。スマートでなくていいからもっと口から泡を飛ばして街作りについて熱く議論しようぜ。【松村】